

令和2年度 第1回焼津市自治基本条例推進委員会 会議録

- 日 時 令和2年7月9日(木) 13:30～15:10
- 場 所 焼津市役所会議室棟 101号室
- 出席者 自治基本条例推進委員 8人
松下委員長、関副委員長、高橋委員、兒玉委員、中野委員、鈴木委員、
向坂委員、近藤委員
事務局 7人
内田部長、鈴木課長、緒方係長、横井主査、藤田主査、鈴木主査、大石主事
- 欠席者 大石委員、寺本委員
- 次第 1 開 会
2 挨拶
3 議 事
(1) まちづくり市民集会における市長報告の内容及び市民集会での意見の
反映、取り組みについて
(2) 今年度の市民集会の開催について
(3) 今年度の推進委員会の在り方、方向性について
4 その他

(鈴木課長)

定刻となりました。

本日は、大変お忙しい中、また足元の悪い中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。只今から、「令和2年度第1回焼津市自治基本条例推進委員会」を開催します。

私は、本日の司会を務めさせていただきます市民協働課長の鈴木です。よろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、内田部長よりご挨拶申し上げます。

(内田部長)

～挨拶～

(鈴木課長)

内田部長 ありがとうございます。

議事に入ります前に、委員の交代がありましたのでご報告させていただきます。

社会福祉協議会内の役員交代により古川譲治様に代わりまして今年度より高橋正之様が新しく委員になりました。高橋様、一言ご挨拶をお願いいたします。

(高橋委員)

社会福祉協議会は、地域のボランティアさんや自治会の方にご協力いただいて成り立

っております。また、こういった自治基本条例についても社会福祉協議会の事業と少なからず関わりがあると思います。前任の古川と同様にご協力させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

(鈴木課長)

高橋様、ありがとうございました。これからよろしくお願いいたします。

大石委員と寺本委員より本日の会議を欠席する旨のご連絡をいただいていることを報告させていただきます。また、鈴木委員につきましては、遅れて出席となりますのでよろしくお願いいたします。

大変申し訳ありませんが、部長につきましては、次の会議がありますので、これで退席させていただきます。

(内田部長)

申し訳ございません。どうぞよろしくお願いいたします。

(鈴木課長)

それでは、これより議事に入ります。松下委員長、進行をお願いいたします。

(松下委員長)

よろしくお願いいたします。さっき聞いたところ、焼津はコロナが出ていないということで、すごいですね。今日は、温かく迎え入れてくれてありがとうございました。

それでは、まず議題の1まちづくり市民集会の市長報告や取組について事務局から説明をお願いします。

(緒方係長)

～市長報告の内容及び市民集会での意見の反映、取組みについて説明～

(松下委員長)

ありがとうございました。

まず市長報告の時に出席した委員さん、どんな感じでしたか。

(関副委員長)

今の報告にありましたように、全国的にもめずらしいことを継続的にやっていることが誇れるものだということで、いろいろなところで私も宣伝していますよということでした。それと市長は前々からおっしゃっていることとして、焼津のいいところ、要するにもう有名になってしまっているところではなくて、隠れたようなところや本当はこんなに良いところがあるんだよということがなかなか出てこないということでした。

もう一つは、市民とのつながりを大事にしたいということで、つながるためにはどう

したらいいかという話から、地域で挨拶をしようということをおっしゃっていました。

(松下委員長)

ありがとうございました。前回の時に、結果的にいつもやりっぱなしになってしまうので、やった成果を形にしていこうということをお話しました。なかなか難しいことなんですけれども、少しずつできるところからやっていこうと。それが目に見える形になれば、やっているんだなということにもなるし、他にも説明ができる。例えば、それを市長に言ったんだよというだけでも違うと思います。非常にありがたかったのは、実行委員の人が市長さんのところに行ったことです。やった市民の人たちの出番という大変だけど、そういう機会をどんどん作ってほしいですね。役所でちょこちょこっといけば報告できてしまうんですけど、それじゃダメなんです。こういう風にみんなで参加するようにして、公式に報告に行って市長に言葉をかけられれば、がんばるぞという気にもなるし、市長こうですよという提案もできるんですよ。そういう機会を作っていくということを事務局として心がけていってほしい。事務局でやっちゃえばできちゃうんだけど、そういう風にしないようにするということですね。

共有化と今後の課題について、その他何か感じたこと、あるいは疑問でも何でも結構ですけれどもありますか。

遠慮はしないでください。今後の取組のところでも、例えばメールアドレス欄のことなんかは、小さいことなんですけど結構効くんですよ。あと今まで学校経由というのが一般的だったけれど、もっと人のつながりを重視するということも大事なことだと思います。そういう地道なことの方がかえって効果的だと思います。だから、去年何とか少し具体化しようよと言ったことが少しずつ実を結んでいるということは、すごく意味があると思います。

それでは、成果の共有と今後についてはいいですか。

次が少し厄介なので次に行きましょうか。次は議題の2、今年の市民集会をどうするかということです。これについて、事務局からの説明の後、委員のみなさんで意見交換をしたいと思います。よろしくをお願いします。

(鈴木主査)

～新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた現在の状況について説明～

(松下委員長)

はい、ありがとうございました。まず、今いくつか文化会館の利用条件とか図面について説明してもらいましたので、意見交換をする前にもう少し条件を整理した方がいいと思いますので、もう少し疑問点などの聞きたいことを出してもらいたいと思います。

例えば私ですと、こまめに消毒するところ、不特定多数が接触する場所というのは具体的にどこなんでしょうか。

(鈴木主査)

イベントによって変わってくると思いますが、ドアの開閉があるような場合にはドアの持ち手などが対象になると思います。

(関副委員長)

マジックなんかがそうですね。

(松下委員長)

トイレなんかも掃除しなければならないとなれば、大変な話だけど、マジックなんかはそうですね。

(関副委員長)

いすやテーブルは使う前に消毒すればいいと思います。

(鈴木主査)

途中の入れ替えは難しくなると思います。

(松下委員長)

そうなりますね。マジックだって持ったら自分のものとしてもらうしかないですね。

(兒玉委員)

書く人を1人決めるのも一つの方法ですね。

(松下委員長)

模造紙を使わないというのものもあるかもしれないですね。他にも何かありませんか。

(兒玉委員)

お菓子はやめるんですか。

(松下委員長)

お菓子はダメですね。本にも書いたんだけど、それが焼津のいいところで全国的に見てもウエルカムが最高だと思います。焼津らしいところだけどそれは仕方ないと思います。

(関副委員長)

飲み物も紙コップではなくて一人ひとりということになりますね。

(松下委員長)

そうですね。今まではむしろ密にしようとしたわけだから、それが本来の姿だと思いますけど。

(兒玉委員)

今までのようにやっていて、6人でもよく話が聞こえないという人がいたくらいだから、このように離したら聞こえないですよ。その中での話し合いができるようにしないと。

(松下委員長)

大きい声になってしまうかもしれませんね。4人というとも机は6つになるということですね。

(鈴木主査)

案は模造紙を置くことを考えて6つにしていますが、模造紙を置かないということであれば、真ん中を開けることは可能です。また、チェックリストの中ほどに、イベント中の大きな声での対話は控えてくださいと記載がありますので、文化会館との話し合いが必要になると思います。

(松下委員長)

いつものようにはできないとしても、こうして話しているとできる形が自ずとできてきますよね。今みたいにマジックは使わないとか、移動はしないとかイメージがだんだんできてきたんじゃないかと思います。今はチェックリストを見てみたけど、それ以外でも結構ですので、やるとして考えてみて、できなければやらないとすれば良いと思いますが、こんな課題があるとか、こんな風に考えると、みなさんのご意見を遠慮なく言ってください。

(兒玉委員)

今までのように話をたくさんするというよりも、発表してもらって団体をふやしてみてもどうでしょうか。話し合いで入れ替えができないんだったら、色々な団体の想いを聞くいい機会だと思う。

(松下委員長)

それは、内容との絡みもありますね。今まではみんなで人生100年時代とか考えたけど、今の話は団体の活動を聞いて、それについて話すと、グループごとに団体の人がいて、残りの3人と話すというスタイルもあると思います。

(向坂委員)

例えば、密にならないということ考えた時に、よその地域だと洪水とか起こって避難所なんかに行くという方が多かったですし、焼津市も去年台風の時に避難しなきゃいけないという方がいっぱいいたので、逆に例えば、社協さんとVCさんなんかに防災の講演してもらって、避難所で密にならないために焼津市だったらこんなことができるよとか、パーテーションとかを置いてみて、避難所はこんな風になるんだよという想定をして話をすれば、人が集まる時にどうすればいいかということが議題になってマイナスを前向きに変えられるんじゃないかと思ったんですけど。

(松下委員長)

今のは、3密にならないためにそれを話すんですね。

(向坂委員)

体験してもらえば、会話しないで黙々とやるかもしれないし、実際開催するとして、受付で非接触型の体温計や消毒液はどこが用意するのか、拭き取りの時にタオルで何度もやると効果が無くなってくるから、どういう形にするのかとかいっぱい問題が出てくると思うんですよ。だからそういうことを紹介することをテーマにしてもいいと思います。VCさんは、とっっても一生懸命やられているのでどうかなと思って提案しました。

(松下委員長)

福祉なんかだと敏感にならざるを得ないじゃないですか。こういう集会じゃなくいろいろな形で密に対する対応というか、そういうのを考えるのはリアルな話だと思うんですけど、何かそこに関連してヒントみたいなものはありますか。

(高橋委員)

うちの方も、今出た災害の話でもそうなんですけど、with コロナという意味では、実際のところ避難所がどうこうとか、災害VCさんがどうやって対応するとか、まだ具体的な話まではいけていないです。避難所自体の対応についてのマニュアル自体は行政が作られるものですから、ボランティアさんがどうこうということではないんです。災害VCさんはあくまでボランティアの受け入れと災害が起きた箇所とのマッチングをやられる方たちなので、避難所のほうでは、関わることは無いんですよ。ちょっとその対応が違うかなというところですよ。

(松下委員長)

まだフォローアップするマニュアルみたいのはないんですね。

(高橋委員)

福祉について、特にヘルパーなんかは、1対1でヘルパーと利用者さんという形にな

るので密になるとかならないとかではなくて対応するしかないので、怖いところはあります。職員からも不安の声は聞くんですが、仕事上、そこは関わらざるを得ないところ。その辺とここの話では噛み合わない部分もあって申し訳ないです。

(松下委員長)

With コロナ時代の、みんなと一緒に考えるその形を考えるという、要するにみんな。で話すんだけど密にならないような話し方という新しい形のつながりを考えていきたいですね、何でもいいですよ。中野さんどうですか。

(中野委員)

さっき鈴木さんがおっしゃっていた、いつもは議員さんとか職員の方がいらっしゃる。ので、その人数とかを考えなければいけないということで、議員の方が半分だけということが可能なのは私にはわからないのですが、せつかくなら一般の方にたくさん来て。いただきたいので、60人しか入れないとなると、一般の方たちをたくさん集められれば。いいなと思いました。小ホールにお金を払っているということを考えないのであれば、。会館のいろいろな部屋を使って、例えば zoom とかで繋ぎながらチームごとに話をする。というのもありかなと思いました。

(松下委員長)

これからは、そういうのもありですね。そういう会議の仕方もあるんじゃないかみたいな話になったらおもしろいですね。

(中野委員)

会議室とか和室とかあるじゃないですか。ホール以外で分散できるのであれば、zoom。か何かで繋ぐというのもいいですね。

(松下委員長)

私が考える焼津のいいところってやっぱり密で、けっこう濃く集まるというところ。だから、確かにオンライン何とかってあるけど、人のつながりはオンラインでは無理。だと思います。今はこういう時だからあるけど、基本的にはうまく共生しながら人とつなが。ったり顔を見ながらやったりせざるを得ないと思うんですよ。それが自然だと思うの。今は、難しいけど、長い目で見たらそうなると思うし、それしかないと思います。その。補完的にオンラインとかあると思うけど、メインはやっぱり人とのつながりだと思います。

(関副委員長)

そうですね。やっぱり Face to face じゃないとね。

(松下委員長)

となると、やっぱり焼津の集会の良さというか、今年は厳しいけど伝統としては、なくさないほうがいいと思う。私は、人数としては30人くらいでいいと思います。今年はこのことだから無理矢理人を集めなくて、とにかく話すとなって4人で2m離れたら、ある程度間隔がないと隣の声がうるさくなってしまう。そうすると、これの半分くらいの人数でいいと思う。だけど顔と顔を合わせながらみんなで語ったよ、フィジカルディスタンスをとりながら語ったよということに意味があるんじゃないかと思います。今年はこの我慢しよう、今年は何とかなるよという感じですかね。そういう風なものも焼津の魅力じゃないかと思うんですよ。ちょっとそこに本があるんですけど、その中でも焼津で載せたのは、みんなでかまぼこを食べているところ。いろいろなどころがあるんだけど、載せようと思ったらあれが焼津の魅力なわけですよ。市民集会は新城のものを載せたかな。焼津の事例も出ているかもしれませんが、みんなで食べながら密にやるのが焼津の魅力なんですね。今年はどうもできないけれど、絶やさない。そういうメッセージを伝えるくらいのものであまり欲張らないで、そういう風に割り切っちゃったら楽になると思うんですよ。新しいソーシャルディスタンス型のまちづくり市民集会。中止にするのは簡単なんですけど、人と人の対面で顔を見ながら、笑いながらというのが中止になっちゃうというのは悔しいと思います。それが私たちの基本だから。それをうまく両立させながらやらなくてはならないんですけど、とにかくやったら、文化はつないだぞみたいなことが良いんじゃないかと思うわけ。これは文化だから、市長も言っているけど全国で見てもなかなかできることじゃないんですよ。そういう文化をつないでいく。人生調子が悪い時もあるから、今年はこの我慢するみたいな感じかな。そういう風に今の話を聞いていて思ったし、できることならやってほしいなと思いました。そうすると、文化を残すという趣旨なら、市会議員の人だって代表の人5人とか来てくださいと、その5人はみんなの想いを表す人だから、人数制限については、今年ダメだってみんなわかると思います。事務局は正直どうなんですか。

(鈴木課長)

部長も合わせて話をさせていただいた中で、やらないをまず考えるんじゃなくて、どうやったらできるかを考えて、それでもできないならやめることも選択肢という考えです。今、松下先生が言われたように人数を落としてでも焼津が今までやってきたものということであれば、それはそれでということです。

(松下委員長)

今私が言ったことは、焼津のまちづくり市民集会に対する想いなんですけど、進めるという方向で考えてみて、それで何か支障があるかどうか。今、B案で60人だから半分の30人にするとかなり絞られる。このメンバーだけでもこんなにいますよね。役所の人たちを入れたらあっという間に30人になってしまいます。市民の人にも来たい人もいるだろうし、あと高校生ですね。去年来た人を入れてもらったらいいと思います。

(鈴木委員)

去年よかったですよね。高校生。

(松下委員長)

高校生が入る分、私たちが引っ込んでね。次の議題の話にもなるんだけど、私はこう考えているんですよ。焼津の市民集会は、例えばマニフェスト大賞などの表彰を受けられると思うんですよ。国から表彰してもらって、褒められて自信持つと、そういう風にしたいと思っています。そうすると、賞をとるためには、若い人が10%と言わずにもっと集まってきて、若い人が入って活発にやっていると。賞を取るの目的ではないんだけど、新しい道を切り開くということだから。今までのやり方では、賞は取れないから、若い人が入って活発にやっていく、関わった以上そういうような会にしたいと思っています。構想はあるんだけど、ノミネートされたら関さんとかみんなに行ってもらって、旗ふったりして、それを市内や市内に知らせていくという次の展望が出てくる。そういうような考えでいたんだけど、コロナで展開がずれてしまった。でも、みんな軒並みやめている中で、ソーシャルディスタンスを取りながら新しい形の会議を続けたというので良いかなと思っています。だから、高校生に入ってもらって、バランスよくしたらいいと思いますね。

(兒玉委員)

役員だけで10人なので、この間隔なら60人で行けませんか。

(松下委員長)

60人だと話が聞こえなくなってしまうと思います。後ろと2mじゃあ、お互いわいわ一話したら聞こえない。40人くらいでもいいけど、議員さんなんかは5人くらいでいいんじゃないですか。とにかくバランスだから、若い人が10人くらいはほしいですよね。私たちは数人入れればいいくらい。最大で40人くらいじゃないでしょうか。行政も少なくともいいですね。

(兒玉委員)

自治会長さんはどうしますか。

(松下委員長)

何人か来てもらうにしても、その辺はバランスですよ。今回はあんまり欲張ると失敗すると思うんです。今の時点で判断できないけど、人が集まらない心配もあります。だから、ソーシャルディスタンス型のまちづくり市民集会ということで。安心安全と銘打って安全に楽しくみたいな新しい道を開いていったらいいと思う。全部やめてリモートでは人の暮らしに合わないと思います。

検温なんかの機械はあるんですか。

(鈴木主査)

あります。

(松下委員長)

30人とか40人なら簡単ですよ。あとは、消毒とかを何とか減らすような工夫をして、まあマジックは持ったらその人専用にして、密に書かないようにしてということならできるんじゃないですかね。安全を銘打った会で、with コロナ時代のまちづくり市民集会ということで賞が取れるんじゃないの。賞は冗談じゃなくてちゃんと調べてみてください。募集時期を逸してしまったらもう駄目だから。一番可能性が強いのはマニフェスト大賞ですね。あとは総務省関係ですが、こっちはハードル高いんですけど、総務大臣賞なんかを取れば市長さんは大喜びだと思いますよ。何でもいいんですよ賞は、そういう公の賞なら。

(鈴木委員)

いい案が浮かばないね。今まで大勢でやって顔付け合わせていろんな意見を交換していたんだけど、これだけになって、つながるという意味では4人じゃあうまくいかないんじゃないかと思ってしまう。

(松下委員長)

4人じゃ少ないですか。

(鈴木委員)

2m離さなきゃいけないということをクリアしなければならないとなると、こうしなきゃならないでしょうけど。

(松下委員長)

6人だと相当離れてしまうでしょ。

(鈴木委員)

今まで、こう顔くっつけて話をしたり、マジックで書いたりなんかしていたので、どうしたらいいかというところが。

(松下委員長)

それを言われたら中止となってしまいますから。

(鈴木委員)

どうしたらいいかというところがね。

(関副委員長)

後ろで作ってみて具体的に様子がわかるんじゃないですか。

～実際にテーブルを並べて、グループ内距離を確認～

(鈴木委員)

遠いですね。これで4人じゃあ。

(松下委員長)

今までのイメージがありますからね。何を話しているかわからなくなっちゃうからグループとグループは離さない。真ん中は空いた方がいいですね。それとパーテーションみたいなものがあるといい。時間も今までは長かったけど1時間半くらいに収めないですね。とにかく全然十分じゃないけど、安全だけ楽しくやったということが大事。今までのものにはおっつかないけどそれは仕方ないですよ。

どうですか。行けそうですか。

(鈴木主査)

文化会館と話し合いをしなければならないと思います。

(松下委員長)

とにかく無理はできない。みんなの合意をとれなかったらできないし、無理矢理やるつもりは全然ないから。だけど、さっきも言ったように何とかつないでいきたいなど、安全をベースにいければいいと思います。パーテーションはどこかにないんですか。避難所とかのやつ。グループごとに分けるもので。

(鈴木主査)

それなら展示用のものがありますね。

(松下委員長)

ホワイトボードでも何でもいいから、仕切れるといいですね。

(鈴木主査)

最後の発表がないと締まらないと思いますが、発表についてはどうですか。

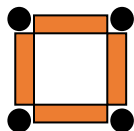
(松下委員長)

発表は、それぞれ前に出てしゃべれば良いと思うよ。マイクは消毒できるし。

(関副委員長)

パーテーションはその時はよけて、前の方で発表すればいいんじゃない。

～テーブルを右図のように移動～



(松下委員長)

これはいいアイデア。これでちょっと考えてみて、あとなんか支障があるものがありますか。

(鈴木委員)

書く人は真ん中に入ればいいんですか。

(関副委員長)

ホワイトボードでいいと思います。書けるから。

(鈴木委員)

そうですね。紙に書かないでここに書けばいいからね。

(鈴木課長)

ホワイトボードはそんなに枚数がないと思います。

(兒玉委員)

裏も使えるの？

(関副委員長)

裏が使えないものは、模造紙を貼ればいいですよ。模造紙として残したいとなれば、両方に貼ればいい。

(近藤委員)

模造紙として残しておいた方がいいと思います。

(松下委員長)

パーテーションに貼ってもいいし、まあそれは何とでもなりますね。このやり方で考えてもらって、とにかく私たちとしては、つなぐということと安全ということを前提に検討してもらって、あと何か支障があるかどうか。我々では、機械があるかとかは

わからないから、できないことは無いと思うんだけど、あとは人選ですね。さっきも言ったように若い人に来てもらって魅力にしたいですね。

(関副委員長)

学生を10人くらいにして、議員さん5人、自治会も5人とか出してもらえればいいですね。

(鈴木主査)

各テーブルに1人は学生がいるイメージですね。

(松下委員長)

そうですね。あっという間に10%超えちゃうんじゃないかな。30%くらいになりますね。それじゃあ席に戻ってください。

この推進委員会だけでは、方向性しか出せないの、細部の細かなところや調整事項は行政の方に確認してもらって、方向としては、何とか乗り越えていくと、障壁はあるわけだから。あとは、市長さんと部長さんの方に今回の議論のポイントを伝えてもらって、絶対やるんだとか、そんなことを言っているわけでは全然ないから、ただ文化として残したいと委員会としても考えていると、そういった協働作業で進めていければと思います。よろしいですか。

それでは、議題の2については、方向が出ましたので、さらに検討してもらえればと思います。おそらく他のところでは中止になると思うので、その中でも良くやったとなるといいですね。そうしたいと思いますね。

次に3番の今年度の推進委員会の在り方ということなんですけど、あんまり欲張ってもできないので、今後の取組のところの具体的なアンケートのメールアドレス欄の開設や高校生への声かけというのは今回もやるんだけど、市民協働人材育成講座の開講というのはどのような内容ですか。つまり、どういうことかという、実行委員とかこの推進委員会の人たちがこういう講座のアドバイザーになるなど、何か関わりが作れたらいいなと思うんです。どんな講座かわからないんだけど、例えば、よくある何とか講座という、コマがあってそのコマの中にこの推進委員会とか地域で活躍する人が入ってくるような関わりというものがあるんですか。

(藤田主査)

市民協働人材育成講座の担当をさせていただいている藤田と言います。今、先生がおっしゃったこととは少し違うんですけど、今考えている講座は、今日いらっしゃっているありのmama隊さんですとか、すでに市民団体を立ち上げている人たちが対象になっています。もちろんそれぞれの団体さんは素晴らしいんですけど、自分たちの活動や現状に満足せずに、もう少しスキルアップをして自分たち内々で盛り上がるだけではなく、他の市民活動をやってみたいけどどうやったらいいかわからない人やワーク・ライフ・

バランスと言われますが、仕事だけ一生懸命やっていくだけではなく、自分の人生そのものをもっと豊かにしたいと生きがいを探しているような、それこそ50代の新元気世代の人たちに対して、市民活動というものがあるよと呼びかけて巻き込むようなテクニックを磨いてもらうものを考えています。対象は市民活動をやっている人ですが、講師としては、市民活動をしている人で、単なる成功事例で終わらないようにとは思っています。今はこういう事態なのでリモートでやろうとは考えております。

(松下委員長)

そういう時に市民集会の実行委員とかこの推進委員にも頼めるかなあと考えてもらって、知ってもらう機会にしてもらえたらいいかなと思います。できる範囲でいいけど、人材をうまく使ってもらいたいかなと思います。この委員会としては地道にやっていけばいいかなと思っています。あんまり欲張らずに、一歩前に出たのでそれをもう一押しかなあ。

(近藤委員)

この講座というのはどこでやるんですか。事務局としては、どこで考えているんですか。

(藤田主査)

くるさ~でやりますが、リモート配信もする予定です。

(近藤委員)

いいじゃないですか。ホームページを見るとテーマを変えてやっているようなので、いいと思います。

(鈴木主査)

この中にも、市民活動をされている方はいるので推進委員の方も対象になり得ます。

(近藤委員)

今、先生が言った2番目のアンケートへのメールアドレス欄の新設ですが、どういうものですか。

(緒方係長)

市民集会の時、最後にアンケートを配りますよね、そこにアドレスを入れる欄を設けるということです。

(松下委員長)

仲間を増やすということだよ。一回参加した人は逃がさないということで、つまら

なかったら来なければいいので、情報はお知らせしてあげるといこと。

そういう意味では、相模原はわかプロというんだけど、私の学生なんかも卒業して会社に勤めたけど、半分くらいは入っていますね。頻度は全然違うけど、時間があつたら参加するという感じで。日曜日なんかはたまに出掛けてみようとか、それが趣味みたいになっていて、お茶を飲みに行くのと同じような感覚になっている、それが大事だと思います。そういう風にやりたいっていう人もたまにはいるわけです。だから高校生なんかで入ったら絶対逃さないとか。この前来た人も浜松の方のまちづくりの大学に行くって言ってたじゃないですか。そういう風にどんどん入っていく人もいるから、そこを掴むのは大事ですよ。

今後の在り方、方向性についてはどうですか。あんまり欲張らないでやりたいと思っているんです。今年はね。とにかく今年は集会をやるのはけっこう難事業だと思うんです、やるとしたら。そこに注力して、安全で楽しくやり遂げる。そうしたいと思うんですよね。それがこの委員会の今年のミッションですかね。

その他何かありますか。

(鈴木主査)

すみません。市民集会はやる方向でということだったのですが、もしみなさんの中にこんなテーマでというものがありましたら参考にお聞かせください。

(松下委員長)

30人から40人で話して、時間は1時間半くらいですね。おそらく前段で挨拶とか説明とかあつたとしても、残り1時間ちょっと話してまとめていくという感じになると思うんですよ。だからその範囲で。

(鈴木主査)

先ほど関さんから報告をいただきましたが、市長からは、焼津のいいところがいいんじゃないかということでした。

(松下委員長)

焼津のいいところでやったことないですか？

どこでやっても、「いいところ」でやると人が集まんないんですよ。普通にやっても人が集まらない。面白くないんですよ。だから逆に言うと少人数でやるときはいいかもしれない。

(鈴木主査)

第3回るときにやいづ自慢ということをやっています。ふるさと納税に関連してですが。

(松下委員長)

144人も来ていますね。焼津は違うなあ。市長の言うところの隠れた魅力、市長さんも言っているんだからやってみる価値はありますね。それも一つですね。

(鈴木委員)

隠れてなくてもあると思うんですけどね。気が付かないっていうこともありますね。時々観光協会に行くんですけど、駅前の通りってすごく使うのに都合がいいのになんでみんな使わないんだらうなって思っています。何かやろうよって言っているんですけど、私だけ言っても仕方ないんだよね。駅を下りてすぐあるし、まっすぐで車も通らないし使い勝手がいいのに。

(松下委員長)

やる場所としてね。

(鈴木委員)

そう、何でイベントをやらないのかなって思うんですけど。

(兒玉委員)

ちょこちょこやっているでしょ。でもイベントだけじゃあなかなか集まらないかなあ。

(近藤委員)

今、わかものまのまちの土肥さんがやっているよね。

(鈴木委員)

図書館をやっていますね。当たるかどうかわからないけど、みんなでなんかやってみたらどうかなと思います。

(松下委員長)

テーマについては、どういう日程で決めなければいけないんですか。まだちょっと出てこないですね。できるかどうかというところなので。

(鈴木主査)

まだ大丈夫です。

(松下委員長)

形が決まってから考えた方がいいかもしれないね。みんなで宿題として考えてもらっ

てさ。

(近藤委員)

先生一つテーマいいですか。

(松下委員長)

どうぞ。

(近藤委員)

福祉の面で、前にも一回声があがったんだけど、今までやってきた中ではあまり見受けられないのでどうかと思います。福祉と言ったっていろいろありますが。

(松下委員長)

例えばどんなものですか。

(近藤委員)

例えば地域での支え合いとか、思い切って居場所づくりとか。

(鈴木主査)

5回目に少し近い内容でやっていますね。

(近藤委員)

オールやいづのまちづくりでね。いいです。参考までに。

(松下委員長)

また考えてみましょう。

そろそろ時間になってきたので、その他、事務局ありますか。

(鈴木主査)

最後に事務連絡となります。今年度のまちづくり市民集会については、開催という方向でご意見をいただきましたので、予定どおり1月9日に文化会館の小ホールということで検討させていただきます。本日のご意見ですが、市長の意向を踏まえ、検討部会に諮らせていただいて開催については決定させていただければと思いますので、ご了承ください。例年どおりやることとなりましたら、実行委員会形式で進めさせていただければと思います。開催時期については、進め方など先ほどのご意見のように色々変更があると思いますので、8月末くらいに1回目をやらせていただければと考えております。また推進委員のみなさまにおかれましては実行委員をお願いすることとなりますので、

よろしくお願ひいたします。

(松下委員長)

市長に話すときは、どうしても今は守りになっているときだから大事になります。ここで話したように安全などを十分に考えながら、でも、うまく文化を残していくという接点として知恵を絞ったということを伝えてもらわないと、今の時期はそんなに人を集めるのはダメじゃないかと単純な話になってしまう。もちろんそういう判断も一つあるとは思うんだけど、十分ここで配慮しながら議論したということを伝えてほしいんです。イケイケでは全然ないということ。

よろしいですか。今日はごくろうさまでした。

(鈴木主査)

最後に一つすみません。

この推進委員会なのですが、次回、第2回の推進委員会の予定は10月頃を予定しておりますのでよろしくお願ひいたします。追って通知をさせていただきます。

(松下委員長)

この期間、いろいろいきさつがあると思うから、メールなんかで連絡してもらえればと思います。

(鈴木課長)

情報の提供はさせていただきます。

今日は長い時間、ありがとうございました。

こういう状況ですが、今後開催に向けてお知恵を拝借させていただきますので、またその時にはご意見等をいただければと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

本日はありがとうございました。

— 了 —